

第2次みどりの風吹くまちビジョン策定にあたって

平成という時代が間もなく終わろうとしています。時代の転換点に立って振り返ると、戦後復興期から高度経済成長期にかけては、日本が飛躍的に豊かになった時代でした。右肩上がり人口が伸び続け、毎年のようにGDPは増加し、瞬く間に世界第2位の経済大国にまで駆け上がりました。

今は、全く逆になりました。日本は、史上初めて少子高齢化・人口減少社会に突入し、右肩上がりの経済成長はもはや幻想となっています。新興国が目覚ましい経済成長を遂げるなか、国際社会における日本の影響力は相対的に低下しています。困難な時代にあつて、日本はどうあるべきか、基礎的自治体はどうあるべきか。根源的な課題に直面しています。私は、こういう時代だからこそ、練馬区は前へ前へと進まなければならない。未来を切り拓くために難しい課題から決して逃げてはならない。そう考えています。

昨年6月には、グランドデザイン構想を策定し、区の目指す将来像を区民の皆様にお示しました。第2次みどりの風吹くまちビジョンは、グランドデザイン構想の実現に向けて策定するものです。時代を先取りした新しい政策を立案・実行し、区自ら身を切る行政改革を断行し、区民参加を「参加から協働へ」と更に前に進めなければならない。私に課された使命です。

政策においても、区政運営においても、「ここに練馬区あり」と胸を張れる自治体を創りたい。23区の先頭を切って進む自治体行政を実現したい。誰もが誇りにする、みどり豊かな美しいまちを創って次の世代に引き継ぎたい。私の一貫して変わらぬ大きな夢です。大変難しい道ではありますが、全身全霊を傾けて努力をしていきたい。そう決意しています。

平成31年3月

練馬区長 前川 耀男

